

教科教育学コンソーシアム設立会議－記念シンポジウム－

教科教育学の歴史と展望を語る
－私達は何を論じてきたか・論じようとしているか－

基調提案

2021年3月14日
岡出美則（日本体育大学）

アウトライン

- I 体育科教育学が問い合わせ、解明してきたこと
- II 体育科教育学が議論し、提起してきたこと
- III 体育科教育学が直面し、挑戦していること

I 体育科教育学が問い合わせ、解明してきたこと

教科に関わる実践と教科教育学の社会的構成

科学としての信頼される制度上の基盤構築

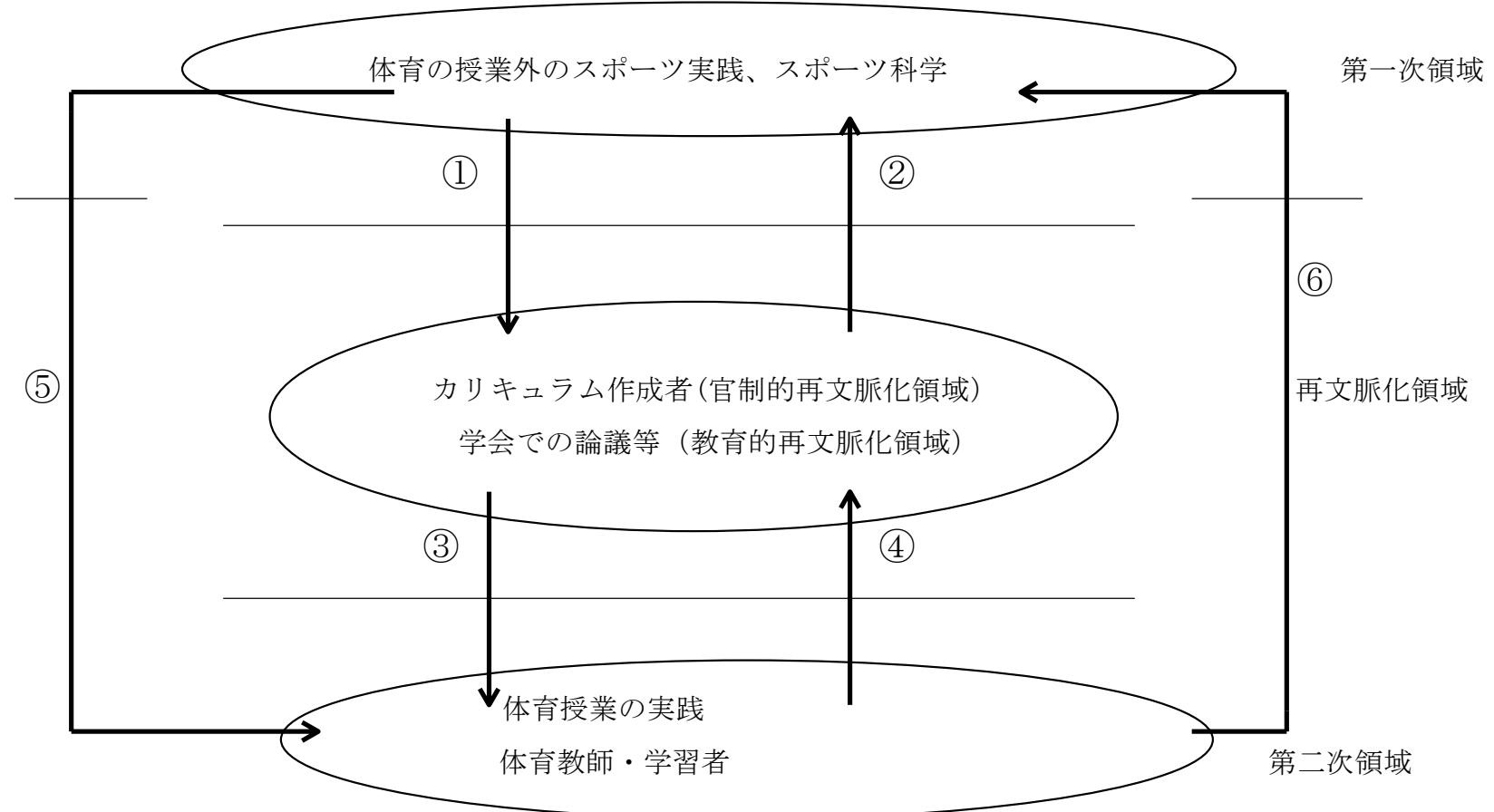
授業で派生している事実確認の枠組み（プレセージープロセス・プロダクトモデル）の構築

学習者の認識、行動

教師の認識、行動

組織的観察法、形成的授業評価等、授業経過や成果を評価するツールの開発

教科をめぐるディスクourses産出の メカニズム(岡出、2021,p.31)





[設立について](#) [運営委員会](#) [加盟学術団体一覧](#) [学術連合大会](#) [イベント情報](#) [お問い合わせ](#)

[HOME](#) | [加盟学術団体一覧](#)

加盟学術団体一覧

大阪体育学会
スポーツ史学会
(公社)全国大学体育連合
(公社)全日本鍼灸学会
体育史学会
東京体育学会
(一社)日本アスレティックトレーニング学会
日本アダプティッド体育・スポーツ学会
日本運動疫学会
(一社)日本運動・スポーツ科学学会
(一社)日本学校保健学会
日本健康医学会
日本健康科学学会
日本コーチング学会
日本ゴルフ学会
日本生涯スポーツ学会
(公社)日本女子体育連盟
日本水泳・水中運動学会
日本スプリント学会
日本スポーツ運動学会
(特非)日本スポーツ栄養学会
日本スポーツ教育学会
日本スポーツ社会学会

日本スポーツ心理学会
日本スポーツ人類学会
日本スポーツヒュンダー学会
日本スポーツマネジメント学会
日本スポーツパフォーマンス学会
日本体育科教育学会
(一社)日本体育学会
日本体育・スポーツ経営学会
日本体育・スポーツ政策学会
日本体育・スポーツ哲学会
日本体育測定評価学会
(一社)日本体力医学会
日本テニス学会
日本トレーニング科学会
日本ゴルフ学会
日本生涯スポーツ学会
(公社)日本女子体育連盟
日本水泳・水中運動学会
日本スプリント学会
日本スポーツ運動学会
(特非)日本スポーツ栄養学会
日本スポーツ教育学会
日本スポーツ社会学会

以上 50音順 46団体

日本スポーツ体育健康科学学術連合HP
(一社)日本体育学会HP



[学会について](#)
[director](#) [入会・各種手続](#)
[procedures](#) [学会大会・研究会](#)
[society](#) [リンク・関連団体](#)
[links](#) [お問い合わせ](#)
[Inquiry](#)

HOME > リンク・関連団体

リンク・関連団体

○ 協力学会

- » 北海道体育学会
- » 東北体育・スポーツ学会
- » 北関東体育学会
- » 千葉県体育学会
- » 東京体育学会
- » 神奈川体育学会
- » 長野体育学会
- » 山梨体育・スポーツ科学学会
- » 新潟県体育学会
- » 北陸スポーツ・体育学会
- » 東海体育学会
- » 京都滋賀体育学会
- » 大阪体育学会
- » 奈良体育学会
- » 兵庫体育・スポーツ科学学会
- » 広島体育学会
- » 岡山体育学会
- » 山陰体育学会
- » 山口県体育学会
- » 四国体育・スポーツ学会
- » 九州体育・スポーツ学会

○ 専門領域

- » 体育哲学
- » 体育史(体育学会)
- » 体育社会学
- » 体育心理学
- » 運動生理学(運動生理学会)
- » バイオメカニクス(日本バイオメカニクス学会)
- » 体育經營管理
- » 発育発達(日本発育発達学会)
- » 測定評価(日本体育測定評価学会)
- » 体育方法(日本コーチング学会)
- » 保健
- » 体育科教育学(日本体育科教育学会)
- » スポーツ人類学
- » アダプティッド・スポーツ科学
- » 介護予防・健康づくり

[会員マイページにログイン](#)

[日本体育学会 若手の会](#)

[機関誌](#)

[刊行物一覧](#)

[体育・スポーツ科学情報
コラム一覧](#)

日本体育・スポーツ・健康学会
会第71回大会

一般社団法人
日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会
The 71st Conference of the Japan Society of
Physical Education, Health and Sport Sciences

[お問い合わせ](#)

Q&A

学会入会に関するQ&A
(よくある質問)

日本体育学会第29回大会(1979年) 専門分科会構成(体育学研究、1979,p.333)

分類	発表演題数
0 体育原理	20
1 体育史	29
2 体育社会学	53
3 体育心理学	30
4 運動生理学	110
5 キネシオロジー	42
6 体育管理	27
7 発育発達	36
8 測定評価	38
9 体育方法	128
10 保健	26

日本体育学会第30回記念大会専門分科会構成(体育学研究、1980,p.334)

分類	発表演題数
0 体育原理	25
1 体育史	35
2 体育社会学	42
3 体育心理学	35
4 運動生理学	116
5 バイオメカニクス	60
6 体育管理	26
7 発育発達	44
8 測定評価	37
9 体育方法	102
10 保健	26
11 体育科教育学	44

前川(1974)の指摘した体育授業をめぐる問題点をその改善に 向けた体育科教育学の提案

体育授業をめぐる問題点

- 1)研究成果が抽象的で、現場で敬遠された。
- 2)現場の研究成果が蓄積されていない。
- 3)「学習指導要領の作成過程を支援する研究分野が必要」（前川,1974,p.159）

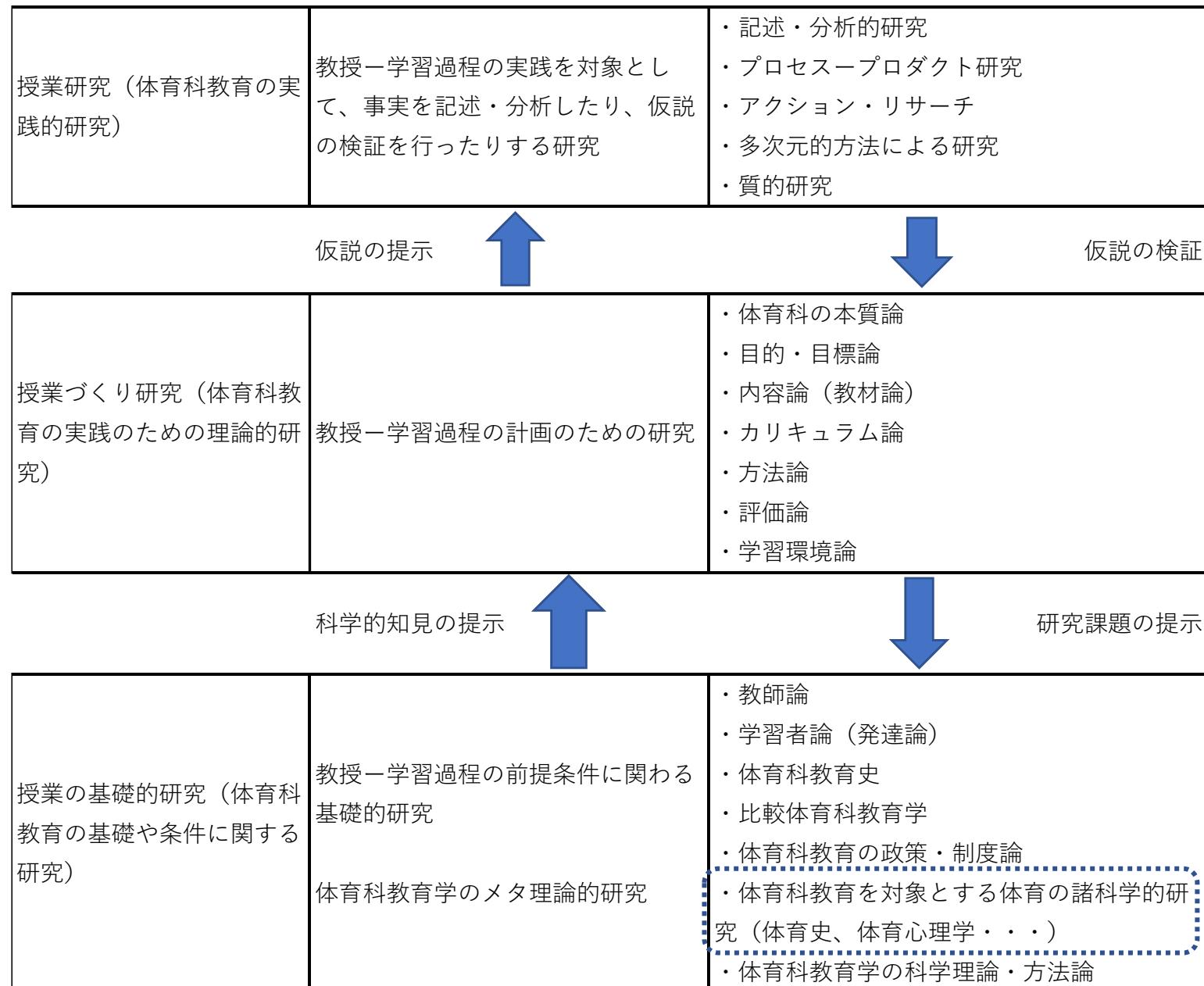
体育科教育学の研究成果に関する低評価

改善に向けた提案

現場から問題を抽出し、諸科学の研究成果を総合化していくような性格が、「体育科教育学」には求められる（前川,1974,p.160）

必要な研究領域

- 1)体育指導の対象になるものについての研究,
- 2)それからでてくる体育の目的、目標の設定,
- 3)その目的や目標に対象者と向かわせるための内容やその内容を含む教材の研究,
- 4)それを成長・発達に応じて時間的に配列する体育カリキュラムの研究,
- 5)このカリキュラムを展開するための学習とその指導法の研究,
- 6)学習の成果についての評価と、運動処方についての研究など



2006年日本体育学会体育科教育学発表コード(体育学研究、2006,pp.12-13)

網	目	コード番号			網	目	コード番号			
体育科教育学原論	体育・スポーツ教育論	11	0	00	〈注〉網と目を組み合わせてコード番号とする	体育科教育論			00	
	体育科教育学論	11	0	01		教育課程			01	
	学特性・学体系	11	0	02		国際比較			02	
	研究対象	11	0	03		目的			03	
	研究方法	11	0	04		内容(教材)			04	
	制度	11	0	05		方法			05	
	歴史	11	0	06		指導者・指導体制			06	
	その他	11	0	07		学習者			07	
	体育科教育原論	11	1			傷害者・病弱者			08	
	就学前体育教育	11	2			個人差・類型差・男女差			09	
	小学校体育科教育	11	3			評価			10	
	中学校体育科教育	11	4			安全			11	
	高等学校体育科教育	11	5			施設・用具			12	
	大学体育教育	11	6			管理			13	
						その他			14	
					その他	学校体育・スポーツ教育論	11	7	0	
						社会体育・スポーツ教育論	11	7	1	
						生涯体育・スポーツ教育論	11	7	2	
						その他	11	7	3	

2007年日本体育学会体育科教育学発表コード(体育学研究、2007,p.12)

網	目	コード番号		
カリキュラム論		11	1	
教授・学習過程論		11	2	
体育教師教育論		11	3	
科学論、研究方法論		11	4	
〈注〉 網と目を組み合わせてコード番 号とする	幼稚園			00
	小学校			01
	中学校			02
	高等学校			03
	大学			04
	現職教育			05

体育学研究にみる体育科教育学に関する総説論文

- 前川峯雄(1974) 体育教育学の確立を目指して. 体育学研究. 18(4) :155–161
- 小林篤 (1998) 体育授業分析方法論. 体育学研究 43:171 –78, 1998
- 高橋健夫 (2000) 子どもが評価する体育授業過程の特徴：授業過程の学習行動及び指導行動と子どもによる授業評価との関係を中心にして. 体育学研究 45 : 147–162, 2000
- 中村敏雄 (2003) 体育は何を教える教科か. 体育学研究. 48:655–665
- 高橋健夫、岡出美則、長谷川悦示 (2005) 体育学研究における体育科教育学研究の成果と課題. 体育学研究. 50:359–368

体育科教育学、教育学、体育学との関係

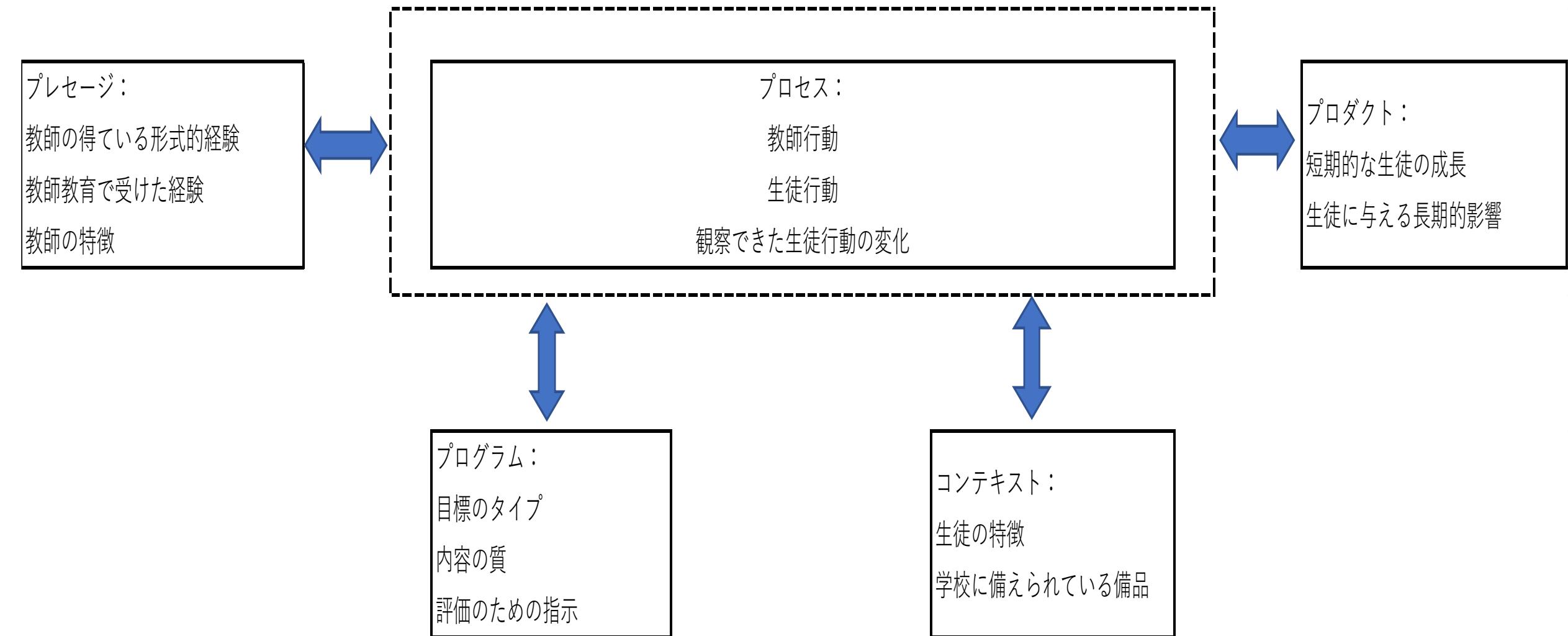
「体育科教育は、体育学および教育学と深く関連するものの、これで教実の1つの専門分野の知識の応用によってそのままであるものでもない。」

育業方は、る限とでらと
体授な学すやるがな
ド、「う育用件すとるがな」
ンかる科にるうすと
ラなす育)すそだ」実践科
グの当体もにい学「
面条件にた子可をを基す
場た般ま(を則格「と
具体的つ一。間用法性を礎
具とかあなの有つ科を)
集な欠体ろに異門知
文化やの可具し践は専の
人そ不をむ実と育学2010, pp. 2-3
ツ個、が識、学学体科
「なし」知が育科の諸
ポ的践究的教分他の橋
体育実研学あ科門にら高
具、る科で育専仮れ(高
内容、てすな的体育、こ」
的どを究ざ応しのつはる。
具体な画をまはに他が学な
具ル計理さでか、た育に
の一)原の点らもし教と
育。元の学う明に。科こ
体、单上育いをろる。育う
館(法体と界)き体い

体育科教育学を冠した主要著書

- 城丸章夫、正木健雄（1961）体育の授業研究
- 高田典衛（1963）子どものための体育
- 小林篤（1978）体育の授業研究
- 中村敏雄（1983）体育実践の見方・考え方
- 小林篤（1986）体育授業の原理と実践 体育科教育学原論
- 成田十次郎、前田幹夫編著（1987）体育科教育学
- 高橋健夫（1989）新しい体育の授業研究
- 乾信之（1994）運動制御研究から体育科教育学を求めて
- 竹田清彦他（1997）体育科教育学の探究
- 木原成一郎（2001）初等体育科教育学
- 高橋健夫他（2002）体育科教育学入門
- 高橋健夫他（2010）新版体育科教育学入門
- 日本体育科教育学会（2011）体育科教育学の現在
- 岡出美則他（2015）新版体育科教育学の現在

教師の信念、知識等



II 体育科教育学が議論し、提起してきたこと

誰に対して、いつ、どこで何を、提案してきたのか？

学会や機関誌を通した信頼できるエビデンスの集積と共有化

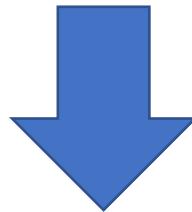
学習指導要領、指導資料（国、都道府県、市町村）作成の支援

教科書（小学校、中学校、高等学校）作成の支援

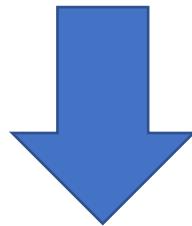
教員養成、現職教育の支援

変容する教師教育の動向
—オーストラリアの例— (Macdonald,2002)

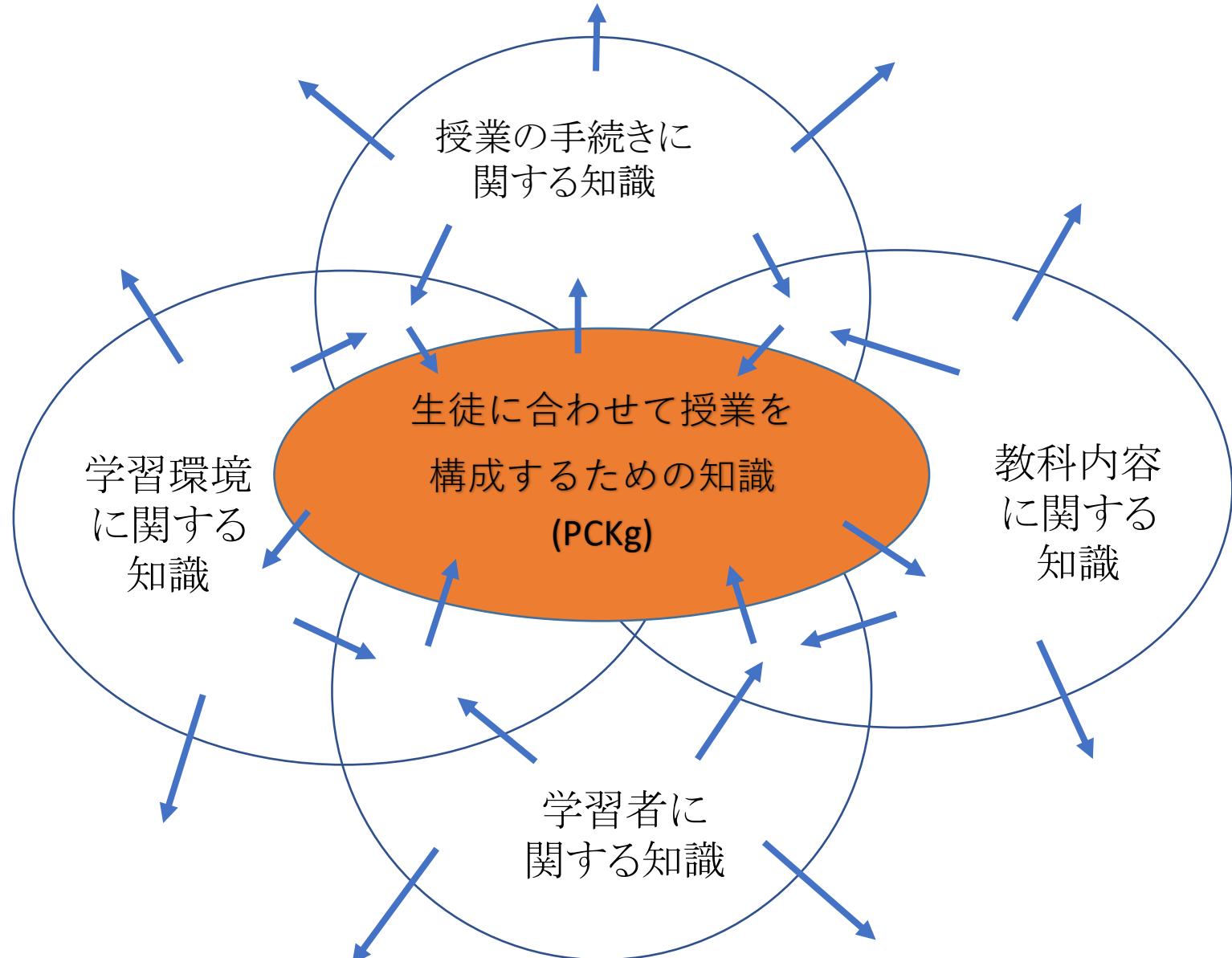
実技志向 (1960年代以前)



専門科学志向(1970年代以降)



専門職志向(1990年代以降)



体育教師教育の基本的立場

- 教師は、実践に役立つ知識を習得する(knowledge for practice)：知識を受け入れる教師
- 教師は、実践の中で知識を習得する(knowledge in practice)：省察主体としての教師
- 教師は、実践の中で知識を生み出す(knowledge of practice)：知識の協同的創造者並びにカリキュラムの創造者としての教師(O'Sullivan,2003,pp.276-278)

授業改善に向けたコミュニティー形成の必要性：
誰がメンバーか、ステークホルダーか、どう育てるのか

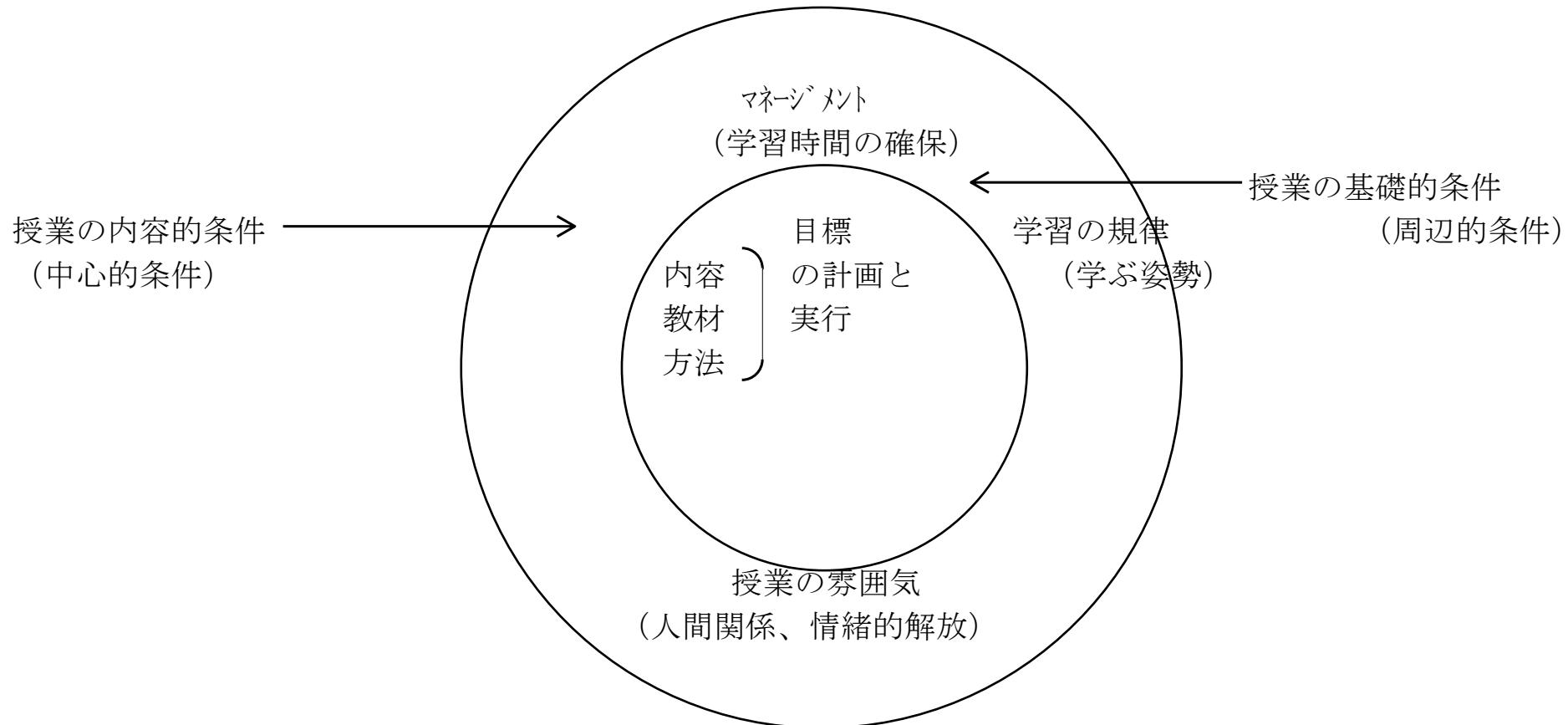
授業の成果を規定する 三つの課題システム

これに対し英語圏では、体育の授業の成果を規定している次の三つの課題システムの存在が指摘されています。これら3つの課題に適切に対応することが、授業の成果を大きく規定することになります。

- **マネジメント課題**：学習の条件を整備する行動に関する課題。行動の説明。組織化。移動。常軌的行動。
- **学習指導課題**：教師の説明と生徒の練習に関する課題。情報提供や課題の修正、総括等。学習指導の課題そのものが、時間経過とともに常軌的行動となっていくことがある。
- **人間関係課題**：教師と生徒、生徒相互の関わりに関する課題。非公式な相互作用。名前を覚える。拍手や握手により認めていることを示す。教師は、マネジメント課題や学習指導課題に、人間関係改善に関する技能の学習を組み込んでいる。
(Jones,1992;Dyson,2010)

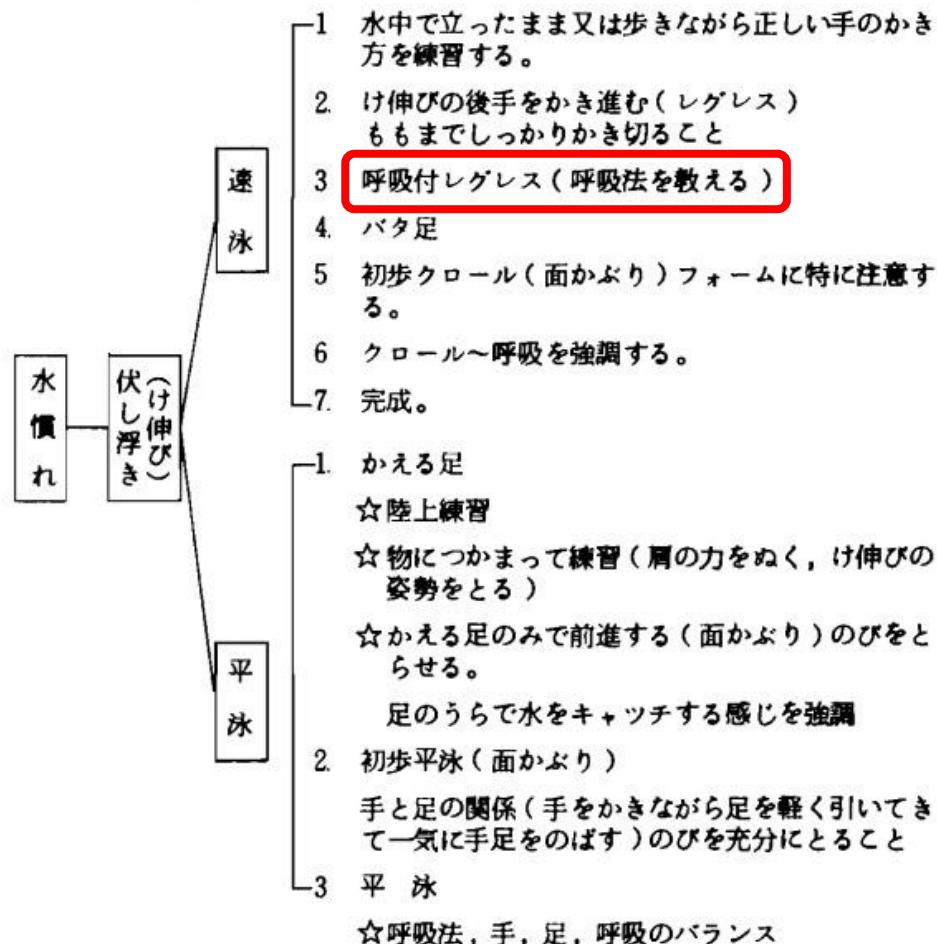
マネジメントの確立は、学習指導の時間や人間関係に対する時間を生み出していくことになる。

よい体育授業を成立させる条件 (高橋、1995、p.17)



1960年代初頭にみられた水泳の指導体系の変化（岡出, 1991, pp. 82-83）

表2 1959年にみられた泳法技術の指導段階（学校体育研究同志会, 1974, p. 178）



1965年に丹下の示した水泳指導の系統

A 呼吸法の練習

B 呼吸法と腕のかきとの結びつき
をつくる練習

C 立った姿勢から平泳き姿勢への
移行と呼吸法の結びつきをつくる練
習

D ドル片泳法

移動のための動きから
呼吸法優先への変化

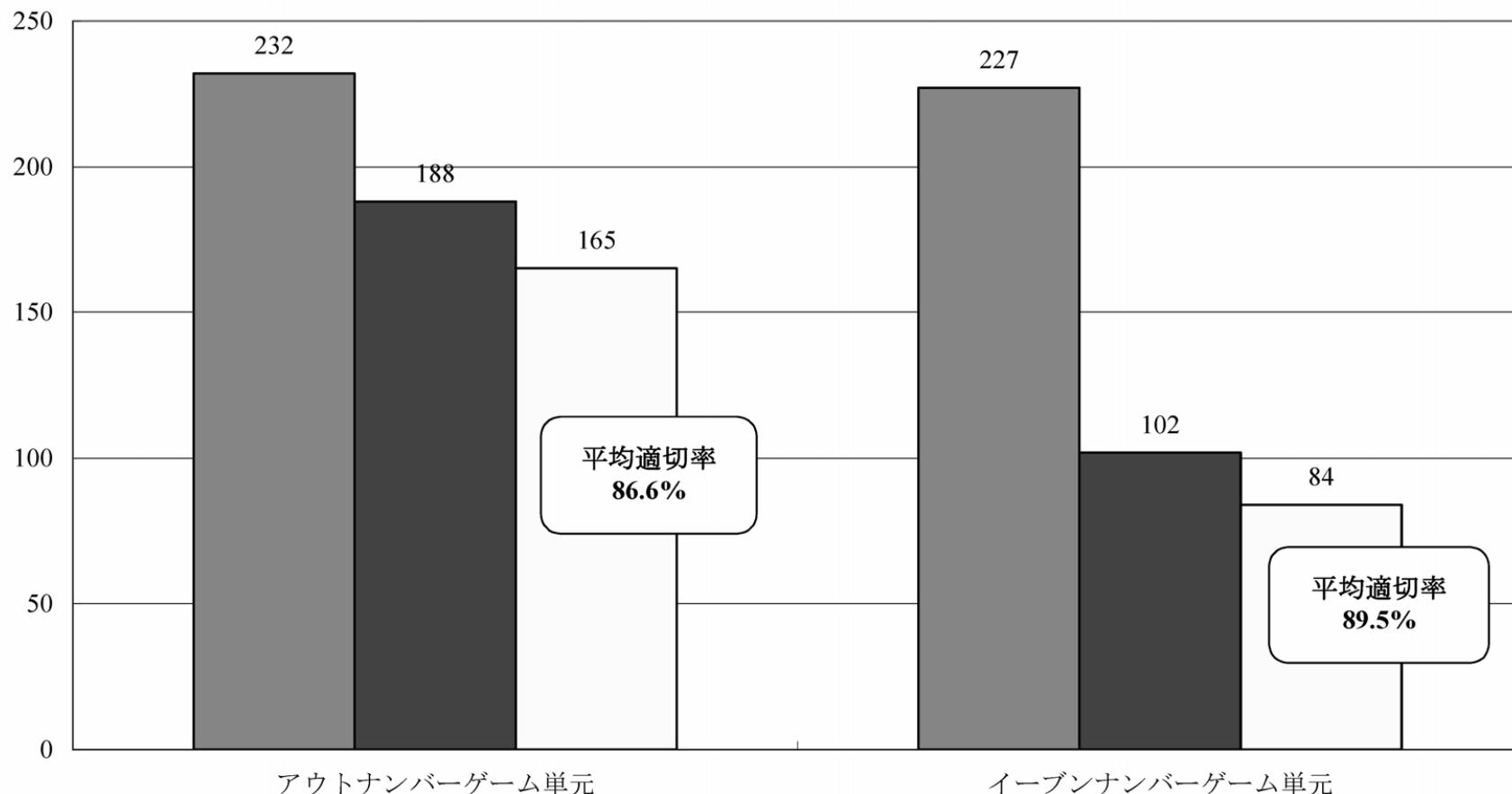
小学校6年生が身につけている サッカーに関する多様な知識(Griffin, 2001, 333)

生徒	健全% (人数)	ありえる% (人数)	混亂% (人数)
得点 (攻撃)			
1. ゴールへの攻撃	59.0% (23)	18.0% (07)	23.0% (09)
2. 攻撃時にスペースを生み出す	56.4% (22)	28.3% (11)	15.3% (06)
3. 攻撃時にスペースを活用する	43.5% (17)	25.6% (10)	30.7% (12)
4. ボール保持	25.6% (10)	31.0% (12)	43.4% (17)
平均	46.2% (72)	25.6% (40)	28.2% (44)
攻撃阻止 (守備)			
1. ボールを奪う	38.6% (15)	30.0% (12)	30.7% (12)
2. スペースを守る	33.3% (13)	23.0% (09)	43.7% (17)
3. 密集する	28.3% (11)	35.7% (14)	38.5% (15)
平均	33.0% (39)	29.7% (35)	37.3% (44)
全体平均	41.2% (111)	27.9% (75)	30.9% (83)

シート場面に直面した者、適切なプレーを行った者及び適切率の平均値(鬼澤、2008,p.458)

(人)

■参加者 ■直面者 □適切者



日本体育学会体育科教育学専門領域シンポジウムテーマ一覧

年	テーマ	年	テーマ
2019	「共生」の視点を踏まえたこれからの体育の授業づくり	2011	「体育科教育学」の学問的成果と課題 －体育の授業研究から－
2018	「体育科教育学」教育の本質を問う	2010	大学における体育教師養成における質的保証をどうするのか
2017	教員養成の観点から体育と保健の関連性を生かした授業づくりを考える	2009	体育を教える教師に今、求められる力量とは
2016	“体育と保健の関連性を生かした体育科・保健体育科の在り方”	2008	教員免許更新制の実施と保健体育科教員
2015	保健体育教師（保健授業と体育授業を担当する教師）教育の課題と未来”	2007	中学 高等学校の保健体育教師に求められる「実践指導力」をどう養成するのか
2014	体育科教育学における教授・学習指導論の未来” —学習指導モデルの観点から—	2006	小学校教師に求められる体育の「実践的指導力」をどう養成するのか
2013	“体育科教育学の未来”—カリキュラム論を問い合わせ直す—	2005	今求められている学習指導要領とは—「学校体育は今日の子どもたちに何を保障するのか」を焦点に—
2012	「体育科教育学」の学問的成果と課題 —学習者の習熟過程に焦点を当てた実証的研究—	2004	スポーツ専門諸科学の教員養成における役割を問い合わせ直す
		2003	指導と評価の一体化

体育科教育学会課題別研究（基調講演、シンポジウム）テーマ（2003年～2019年）

年	テーマ	年	テーマ
2019	新学習指導要領に対応した学習評価の在り方	2011	確かな学力の定着にむけた「指導と評価」の在り方について
	これからの体育授業を考える学習評価の在り方	2010	教科内容に関する知識と教材化の手続き：武道を例に
2018	資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びとは	2009	「教科内容に関する知識と教材化の手続き ：陸上運動ハードル走を例に」
	対話的で深い学びの実現に向けたこれからの体育授業	2008	球技の学習指導、評価について考える
2017	新学習指導要領とこれからの体育授業の在り方を探る	2007	学習指導要領改定と求められる体育授業―「身体能力」に関する体育授業の構想―
2016	「思考力・判断力・表現力」からみた体育授業研究の実践の成果	2006	今もとめられる体育授業のモデル
2015	学会プロジェクト報告 現行学習指導要領の実施状況を問う	2005	今求められている学習指導要領とは
2014	「21世紀型能力」とこれからの学校体育		授業研究の方法論の新しい展開
2013	学校教育における運動部活動と体罰を問う	2004	子どもの体力問題を学校体育の課題としてどう受け止めるか
2012	シンポジウム：確かな学力の定着にむけた「指導と評価」の計画と具体-器械運動の授業づくりを例に-	2003	体育授業における「身体の『内』と外』の架け橋」

III 体育科教育学が直面し、挑戦していること

持続可能な良質の体育授業実現に向けた挑戦
どのような理論を生み出したのか？

良質の体育授業実現を志向するコミュニティの構築に向けた情報
の共有、発信

国際的視点からみた 日本の体育科教育学の課題

「最後に、学問のグローバリゼーションが急速に進展しているが、残念ながらわが国の研究は世界的水準で見たとき後れを取っているといわざるを得ない。しかし、わが国の学校体育実践は世界の最高水準にあることも明らかな事実であり、経験的な授業論も数多く蓄積されている。重要なことは、それらの実践的財産を科学的知識として、また論理的体系として世界に発信することである。」（高橋、2005,p.366）



日本による海外の体育授業の支援

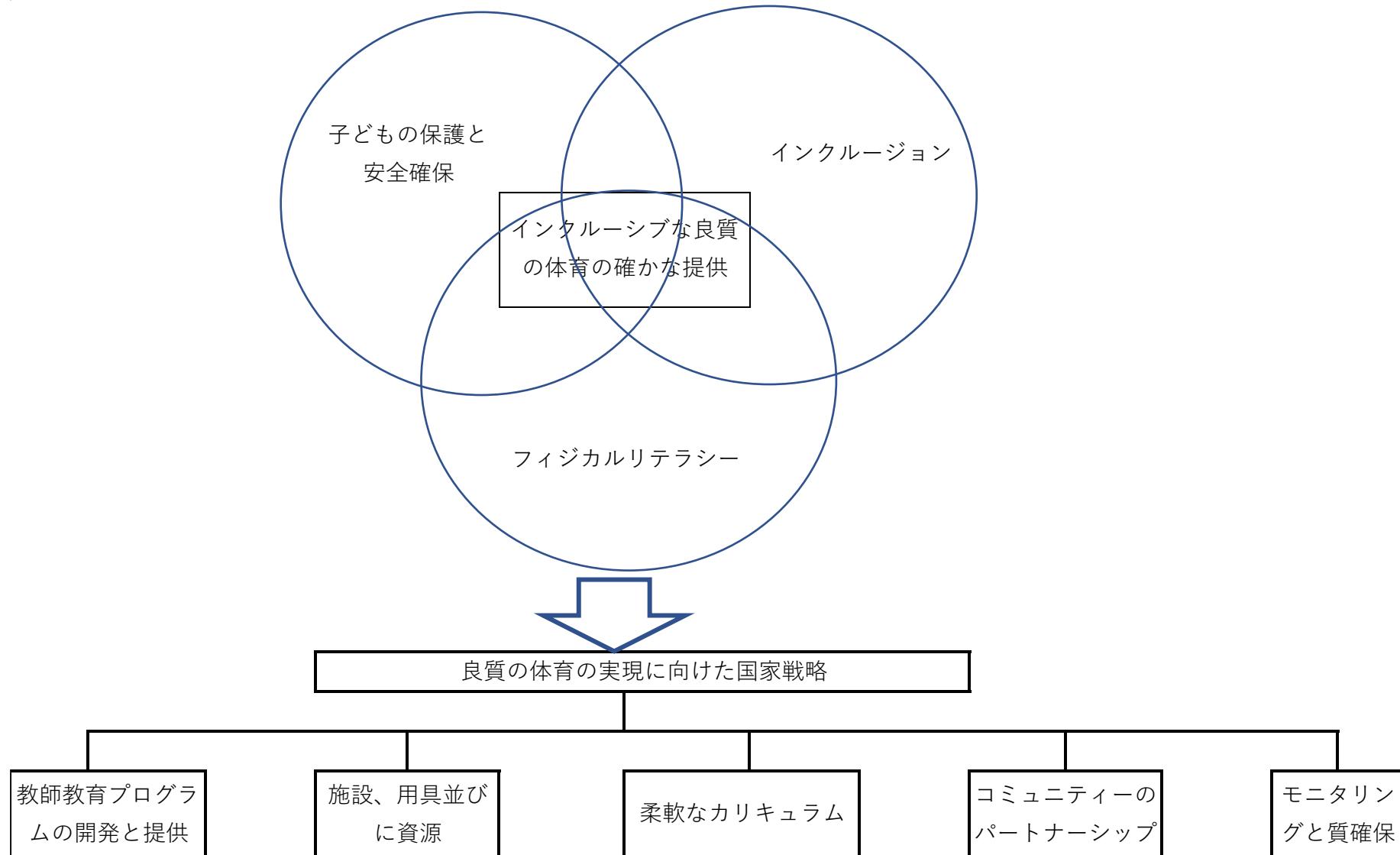
- ・ボスニア・ヘルツェゴビナで展開されたJICA
「スポーツ教育を通じた信頼醸成プロジェクト」
(2016年11月から2020年10月)
- ・ミャンマー国初等教育カリキュラム
改訂プロジェクト (CREATE) (2014. 5-2021. 3)
- ・カンボジアにおける小学校、中学校、高等学校の体育授業並びに体育大学4年制化支援
- ・ペルーにおける体育授業研究の支援

体育科教育法担当者と講義内容の抱える問題点 (中野、2019)

- 担当者の約26%が体育学会の非会員。体育科教育の分科会所属は5割強。
- 全体的に複数人担当、学科全体での科目構成でコアカリ対応が良くなる。
複数人で上手に連携しながら、指導漏れの無いような体制が必要。
- 目標の記載や指導案、模擬講義に関する記載率が目立って高く、
分科会未所属や1人担当でもこれらは高くなる傾向
 - ⇒ 教育現場出身の実務家教員の多くが学会に所属していないことが想定
 - ⇒ 指導案や模擬講義などの教育法に関するものしか網羅できていない？
 - ⇒ 実務家教員にとっての学会の魅力や価値付けが必要
- 背景となる学問領域や子どもの認識や情報機器活用、実践研究に関しては、極めて不足していると言わざるを得ない。
 - ⇒ 他分科会の先生との連携も必要では？
 - ⇒ 事例研究などを積極的に発信できるようにすることで、実務家教員にももう少し関心を持つてもらえるのではないか

研究機関、学校、行政、地域、 企業の持続可能なコミュニティの形成（学校体育研究連合会、2020）





引用・参考文献(1)

- Bechtel,P.A.and Mary O'Sullivan,M.(2007) Enhancers and Inhibitors of Teacher Change Among Secondary Physical Educators. *Journal of Teaching in Physical Education*, 26:221-235
- Casey,A.(2019) Models-Based Practice.In:Ennis,C.D.(ed.) *Routledge Handbook of Physical Education Pedagogies*. Routledge:London.pp.54-67
- Cochran,K.F.,Deruiter,J.A. and King,R.A.(1993) Pedagogical Content Knowing:An Integrative Model for Teacher Preparation. *Journal of Teacher Education*.44(4):263-272
- Dyson,B.P., Linehan,N.R. and Hastie,P.A.(2010) The ecology of cooperative learning in elementary physical education classes. *Journal of Teaching in Physical Education*.29:113-130
- French,K.E., Taylor,K., Hussey,K. and Jones,J.(1996) The Effects of a 6-Week Unit of Tactical, Skill, or Combined Tactical and Skill Instruction on Badminton Performance of Ninth-Grade Students. *Journal of Teaching in Physical Education*.15:439-463
- Graham,G.(2016) *Teaching Children Physical Education*. 4th. ed. Human Kinetics:Champaign. pp.241-244
- Gray,S. and Sproul,J.(2011) Developing pupil's performance in team invasion games. *Physical Education and Sport Pedagogy*.16(1):15-32
- Griffin,L.L., Dodds,P., & Placek,J.H.(2001) Chapter 4 Middle School Student's Conceptions of Soccer:Their Solution to Tactical Problems. *Journal in Teaching in Physical Education*.20(4):324-340

引用・参考文献(2)

- ・橋本敬市 (2/2) (blogos.com) 各国が頓挫するなか日本の教育支援が起こした南東欧の国・ボスニアでの「革命的变化」 <https://blogos.com/article/518993>
- ・(2021年2月28日参照)
- ・Hastie,P.A. and Casey,A. (2014)
- ・Fidelity in Models-Based Practice Research in Sport Pedagogy: A Guide for Future Investigations.Journal of Teaching in Physical Education, 2014, 33, 422-431
- ・乾信之 (1994) 運動制御研究から体育科教育学を求めて.新体育社
- ・(一社) 日本体育学会 <https://taiiku-gakkai.or.jp/>
- ・(2021.3.15参照)
- ・Jones,D.L.(1992) Analysis of task systems in elementary physical education classes. Journal of Teaching in Physical Education.11:411-425
- ・木原成一郎 (2001) 初等体育科教育学. 協同出版
- ・(公) 日本学校体育研究連合会 (2020) 70周年記念誌
- ・小林篤 (1978) 体育の授業研究. 大修館書店
- ・小林篤 (1986) 体育授業の原理と実践 体育科教育学原論. 杏林書院
- ・小林篤 (1998) 体育授業分析方法論.体育学研究 43:171 – 78, 1998

引用・参考文献(3)

- Lee,A.M. et.al.,(1992), Cognitive Conceptions of Teaching and Learning Motor Skills", Quest,44-1:57-71
- 前川峯雄(1974) 体育教育学の確立を目指して. 体育学研究.18(4):155-161
- マクドナルド、D.(2002)オーストラリアの教師教育の現在 過去 未来: シーソー、ブランコ、滑り台 Past, Present and Future of Australian PETE: See-saws, Swings and Slippery Slide.日本スポーツ教育学会発表資料
- マクドナルド、D.(2003)オーストラリアの教師教育の現在 過去 未来: シーソー、ブランコ、滑り台 Past, Present and Future of Australian PETE: See-saws, Swings and Slippery Slide
- スポーツ教育学研究.23(1):55-63
- 南博、稻場雅紀 (2020) SDGsー危機の時代の羅針盤. 岩波書店
- Mundi 2020年4月号
- 中村敏雄 (1983) 体育実践の見方・考え方. 大修館書店
- 中村敏雄 (2003) 体育は何を教える教科か. 体育学研究. 48:655-665

引用・参考文献(4)

- 中野貴則 (2019) 保健体育教師養成カリキュラムの質と制度保証に向けた日本体育学会の役割. 第70回 日本体育学会 企画シンポジウム I 発表資料
- 成田十次郎、前田幹夫編著 (1987) 体育科教育学. ミネルヴァ書房
- 日本スポーツ体育健康科学学術連合 <http://jaaspehs.com/>
(2021. 3. 15参照)
- 日本体育学会 (1979) 体育学研究 第23巻第4号
- 日本体育学会 (1980) 体育学研究 第24巻4号
- 日本体育学会 (2006) 体育学研究 第51巻増刊号
- 日本体育学会 (2007) 体育学研究 第52巻増刊号
- 日本体育科教育学会 体育科教育学研究. <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsppe/-char/ja/> (2021. 3. 16)
- 日本体育科教育学会(2011) 体育科教育学の現在. 創文企画
- 岡出美則(1991) 体育の教材構成過程における二つのレベルでの情報の組みかえ. 愛知教育大学教科教育センター研究報告. 15:79-90
- 岡出美則他(2015) 新版体育科教育学の現在. 創文企画

引用・参考文献(5)

- ・岡出美則(2021) ドイツ「スポーツ科」の形成過程. 明和出版
- ・鬼澤 陽子, 小松崎 敏, 吉永 武史, 岡出 美則, 高橋 健夫(2008) 小学校6年生のバスケットボール授業における3対2アウトナンバーゲームと3対3イーブンナンバーゲームの比較—ゲーム中の状況判断力及びサポート行動に着目して—. 体育学研究、53：439–462
- ・O'Sullivan,M.(2003) Learning to Teach Physical Education. In:Silverman,S.J. and Ennis,C.D.(Rds.) Student Learning in Physical Education. Human Kinetics:Champaign. 2nd ed. pp.275-294
- ・Piéron,M.et al(1988) Research in Sport Pedagogy. Hofmann:Schorndorf.
- ・Schulman,L.S.(1987) Knowledge and Teaching:Foundations of the New Reform. Harvard Educational Review.57(1):1-22
- ・シーデントップ、D.著、高橋健夫他訳（1988）体育の教授技術. 大修館書店
- ・城丸章夫、正木健雄（1961）体育の授業研究. 明示図書
- ・オンラインイベント 「第3回日・ペルー授業研究研修会～ペルーの体育科教育における進捗と展望～」 | SPORT FOR TOMORROW (jpnsport.go.jp)
- ・https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/20210227_28/
- ・(2021.3.7)

引用・参考文献(6)

- 高田典衛 (1963) 子どものための体育. 明示図書
- 高橋健夫 (1989) 新しい体育の授業研究. 大修館書店
- 高橋健夫編著 (1995) 体育の授業を創る. 再版. 大修館書店 (1994)
- 高橋健夫 (2000) 子どもが評価する体育授業過程の特徴：授業過程の学習行動及び指導行動と子どもによる授業評価との関係を中心にして. 体育学研究 45 : 147–162, 2000
- 高橋健夫他 (2002) 体育科教育学入門. 大修館書店
- 高橋健夫 (2010) 体育科教育学で何を学ぶのか. 高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖（編著）新版体育科教育学入門. 大修館書店. pp.1-8
- 高橋健夫、岡出美則、長谷川悦示 (2005) 体育学研究における体育科教育学研究の成果と課題. 体育学研究. 50:359-368
- 高橋健夫他(2010) 新版体育科教育学入門. 大修館書店
- 竹田清彦他(1997) 体育科教育学の探究. 大修館書店
- Tsangaridou,N. & O'Sullivan,M.(1994), "Using Pedagogical Reflective Strategies to Enhance Reflections Among Preservice Physical Education Teachers", Journal of Teaching in Physical Education,14(1):13-33
- Townsend,J.S., Mohr,D.J., Rairigh,R.M., and Bulger,S.M.(2003) . Assessing Student Outcomes in Sport Education:A Pedagogical Approach. AAHPERD Publications
- UNESCO (2015) Quality of Physical Education Guidelines for Policy-Makers(<http://unesdoc.unesco.org/images/0023/002311/231101E.pdf>)
- (2021年3月15日)